



萌木 5月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和5年5月12日発行

一步を踏み出す判断を自分の力で

校長 山田 勝

4月は、保護者の皆様に入学者や全校保護者会、部活動保護者会などにご来校いただいたり、新年度の書類等を確認・ご提出いただいたり、ご協力いただきましてありがとうございました。

特に、4月22日の「調布市防災教育の日」の中で実施しました引き取り訓練でも多数の保護者の方にご参加いただきました。重ねてお礼申し上げます。

調布市防災教育の日の取り組みでは、今年度は調布消防署と連携し、「消火器による初期消火」と「起震車による地震の疑似体験」を2校時に行いました。全校生徒が輪番で体験または見学をしました。

学校で行う地震や初期消火といった学習は、通常は映像での視聴学習となることが多いのですが、今年度は身近に見て、そして触ることを通しての学習ができました。このような活動を通し、生徒が「防災」について考える一日とすることができました。

1時間目の「命」をテーマとした道徳では、学年ごとにテーマを決めて取り組みました。どの生徒も真剣に命について考えました。かけがえない命を慈しみ、大切に大事にしようという思いを、改めて自分の心に沁み込ませてくれたと思います。

避難訓練の校長講評では、今年も「自助・共助・公助」について触れながら話をしました。

「自助」は、自らの命を守るための行動・役割です。「公助」は行政、市役所や消防署などが避難所を開設などして、被災者を救護するものです。そして「共助」は、地域の命を地域の力で守るための取り組みです。

地域の人、隣の人と互いの命を助け合う取り組みで、できることをできる人が担います。公助がくるまで、自分たちで命をつなぐために力を出し合っ、助け合う姿勢が「共助」です。

「共助」の実際においては、地域で学ぶ中学生の力が重要となってきます。中学生の自分が地域のためにできること、お年寄りへの声掛けや避難所への誘導や物資の運搬など、地域防災の担い手となることを意識していくことが共助につながります。

いざ災害が発生したとき、自分はどのように行動するのか、行動するべきなのか。自分の力で何ができるのか、自分の行動で誰をどのように守ることができるのか。そのようなことを考え確認する機会にできることが、調布市防災教育の日の在り方になります。

帰宅してから、家族で非常時の約束ごとを確認する機会にできるよう、今日体験したこと、学んだことを報告しましょう、ということでも話を結びました。

新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ対応変更される中、私たちの感染対策も見直しが行われています。マスクをつける外すという対応をはじめ、自分のその時・その場面での状況把握のうえでの判断が、今まで以上に求められています。

ともにこの地で生活していく者として、「自助」だけでなく「共助」の視点から、感染対策に取り組む姿勢も大切なことと捉えたいと思いました。

